

■米国：ムーディーズ社、風力が石炭火力の発電コストを下回ると報告

2017年3月28日付業界紙は、ムーディーズ・インベスター・サービス社の調査によると、風力の発電コストが低下し、調査対象の石炭火力8,700万kWのうち5,600万kWについて、風力がコストで下回ると推定され、石炭火力の直接的な脅威になっているとしている。同社によると、グレート・プレーンズ地方の風力発電はMWh当たり約20ドルである一方、石炭火力は30ドルと推定される。風力発電の急増は、大部分、発電事業者がPTC(発電税控除)が縮小される前に利用しようという駆け込み建設によるものである。2015年にPTCの更新が決まり、現在の風力への投資急増に大きく寄与した。しかし、今後PTCは2019年までに現在のレートの20%にまで引き下げられ、その後は段階的に廃止される予定である。ムーディーズ社の想定によれば、PTCが利用できない場合、風力発電のコストはMWh当たり約40ドルに増加し、風力は石炭や天然ガスと競争できない。しかし、風力発電技術がさらに改善されればコストを下げる可能性があるとしている。